

UTSUNOMIYA UNIVERSITY

宇都宮大学大学院 教職大学院案内

教育学研究科 教育実践高度化専攻

確かな指導理論と優れた
実践力・応用力を育むために

D I V I S I O N O F
P R O F E S S I O N A L
T E A C H E R
E D U C A T I O N

2018 GUIDE

1 教職大学院とは？

学校現場の教育課題を研究する大学院

学校現場の教育活動を課題とし、学校現場と大学を行き来しながら実践研究を進めます。そこでの研究成果を学校現場や地域に還元しながら教員としての資質・能力の向上を目指す、実践指向型の大学院です。宇都宮大学では、平成27年4月に新たに開設しました。



2 宇都宮大学 教職大学院の特徴

1 3つの力を育成します

本教職大学院では、学校改革・授業改善のリーダーとなるべき人材を育成します。そのために、現職院生も学卒院生も、それぞれに次のような力を獲得することができます。



学校改革力

「学校改革力」とは、学校改革のため学校課題を見極め、その解決を推進する力量や、学校内外と協働して課題解決に取り組む力量などで構成されます。

授業力

「授業力」は、授業研究を組織し、リードできる力量や、すべての学習者の深い学びを保障することのできる力量などで構成されます。

個への対応力

「個への対応力」とは、個に応じる特別支援教育の考え方を学習指導や学級・学校経営に生かす力量であり、学校改革力、授業力を下支えする力となります。

2 学校現場に密着した 実践研究を進めます

本教職大学院の中核は、「教育実践プロジェクト」です。大学院生と大学教員が1つのチームとなり連携協力実習校（在籍校も可）の課題と照合して自らの研究課題として取り上げ、学校現場と連

携しながら課題解決を進めることで、学校現場に生きる実践力を身に付けます。現職院生は原則として2年間同じ学校で行うことで、より深い課題解決を目指します。テーマの例を以下に掲げます。

1年次の学卒院生は、附属学校で長期インターンシップを行います。2年次は現職院生と一緒にプロジェクトに参加します。

学校改革力

- 授業力と同僚性を高める校内研修のあり方
- 校内授業研究活性化による学校教育力の向上
- 中学校における校内授業研究会からの学校改革
- 主体的に深く学び続ける子どもを育てる授業デザイン
- 小中一貫教育における教師の内発的改善力を高める要因

授業力

- 子どもの思考を重視した授業の開発と実践
- 中学校数学科における意欲を高める学び合い
- 算数の力を高める学び合い—児童の実態に即した算数の授業づくり—
- 小学校理科における探究する能力を高める教材の開発と実践

個への対応力

- 子どもの主体性を育てる授業づくり
- 保健と道徳に着目した自己指導能力の育成
- 個のニーズに応じた学修支援のあり方
- 一人一人の学び喜びにつながる学修支援のあり方
- 一人一人が主体的に取り組む授業づくり—インクルーシブ教育の視点から—

平成28年度修了生の成果報告書より作成

3 最新の理論や指導方法を幅広く学べます

共通科目は、現代的な教育課題とその課題に直結する教育理論と実践的なアプローチを網羅的に学びます。

選択科目(分野別選択科目)は、大学院生の関

心に応じて受講します。現職院生は個人の関心に応じて、3つの科目群(学校改革、授業改善、個に応じた支援)から、1つの科目群を選択し、その群を中心に履修します。学卒院生は、3つの科目群の基礎をバランスよく学びます。

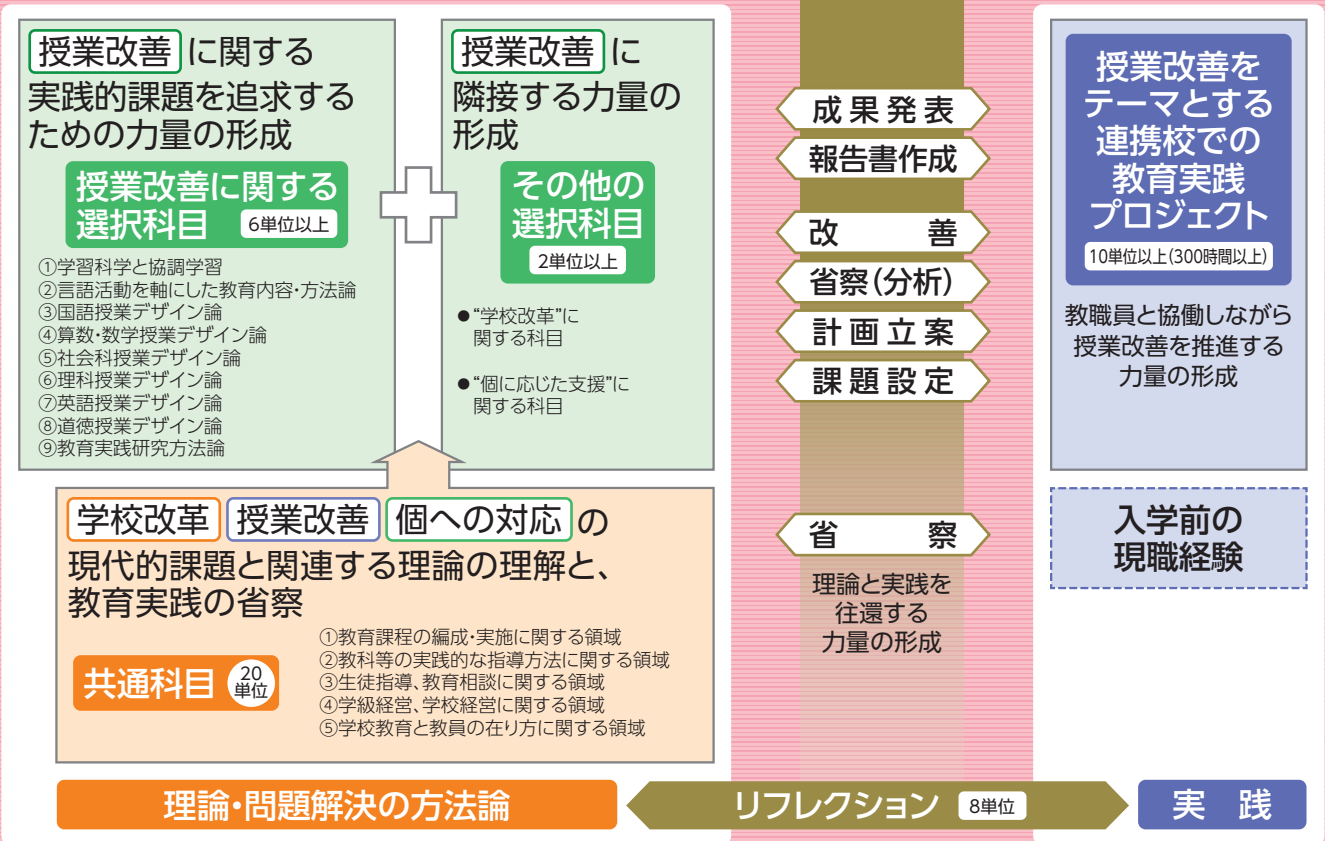
4 理論と実践をていねいに つないでいきます

教育理論と学校現場での活動(これまでの実践や教育実践プロジェクト)をつなぐための科目

「リフレクション」を設定しています。年間を通して、現場での活動を省察し、次の活動に生かすことを繰り返し、その成果を実践報告書としてまとめます(修士論文は作成しません)。

*「授業力」を自ら伸長すべき能力として設定した現職院生のカリキュラムイメージです。

高度の専門的知識に基づく実践的指導力の修得



院生の声



現職院生(平成27年度入学)
大登 英樹
 在籍校：さくら市立上松山小学校

教職大学院での2年間は、これまでの自分を省察し、これからの自分についてじっくり考える有意義な時間となりました。専門性に富んだ教授陣、そして多様な仲間とともに学び合う中で、未来を担う子どもや教育の本質について対話的に学ぶことができました。

私は「子どもの主体性を育てる授業づくり」というテーマで、実践に取り組んできました。実習校では、子どもの様子を観察し、見取ったことを担任に伝えたり、その言動の意味を考えたりしながら、子どもの主体性について考えてきました。金曜日のリフレクションでは、実践してきた取組を全体やチームで振り返る中で、様々な視点からの多様な考えに出会い、実践の整理や意味づけをしてきました。実践とリフレクションを繰り返しながら、仲間と共に語り合い主体的に学んでいく貴重な経験ができました。

授業科目と履修方法

1 3つの力を育てる授業科目

3つの力を育成するために、共通科目、分野別選択科目、教育実践プロジェクト、リフレクションを設定します。必要修得単位数は46単位です。それぞれの指導は、研究者だけでなく実務家教員(教員経験者)が一緒に行います。



授業科目

共通科目 必修：20単位

- 1 教育課程の編成・実施に関する領域
 - ① カリキュラム開発の実践と課題
 - ② 個に応じた指導の実践と評価
- 2 教科等の実践的な指導方法に関する領域
 - ③ 教材開発と教育方法の実践と課題
 - ④ 授業研究の運営と課題
- 3 生徒指導、教育相談に関する領域
 - ⑤ 生徒指導の実践と課題
 - ⑥ 特別支援教育の実践と課題
- 4 学級経営、学校経営に関する領域
 - ⑦ 学校改革の理論と実践
 - ⑧ 学級経営の実践と課題
- 5 学校教育と教員の在り方に関する領域
 - ⑨ 学校教育をめぐる現代的な社会状況とその対処
 - ⑩ 現代教師論

分野別選択科目 選択：8単位以上

1 学校改革に関する科目群

- ① 集団づくり論 ※
- ② 学校評価の開発実践
- ③ 栃木の学校改革
- ④ 学校と地域の連携に関する実践と課題
- ⑤ 学校における「管理」実践とその課題

3 個に応じた支援に関する科目群

- ① 授業における個のとりえ方と対応 ※
- ② 特別支援教育コーディネーターの役割と課題
- ③ 特別な支援が必要な子どもへの理解と対応
- ④ 障害の重い子どもへの教育の在り方

2 授業改善に関する科目群

- ① 授業実践基礎 ※
- ② 学習科学と協調学習
- ③ 言語活動を軸にした教育内容・方法論
- ④ 国語授業デザイン論
- ⑤ 算数・数学授業デザイン論
- ⑥ 社会科授業デザイン論
- ⑦ 理科授業デザイン論
- ⑧ 英語授業デザイン論
- ⑨ 道徳授業デザイン論
- ⑩ 教育実践研究方法論

● 現職院生は、選択した科目群から6単位以上を履修 ● 学卒院生は、※科目を必ず履修

実習科目 必修：10単位(5単位×2、計300時間以上)

- 教育実践プロジェクトⅠ・ⅡA：ⅡB
[Ⅰ・ⅡA：現職院生1～2年次、ⅡB：学卒院生2年次]
- 長期インターンシップ[学卒院生1年次]

※()内は単位数

リフレクション 必修：8単位(通年4単位×2)

- リフレクションⅠ・Ⅱ
教育実践プロジェクトの計画、省察、報告書作成等の実施

※()内は単位数

2 履修スケジュールと時間割例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	共通科目											
	分野別選択科目						分野別選択科目					
					実習科目(週2日程度・150時間以上)							
	リフレクション(活動計画、活動の分析・考察、報告書の執筆)											
2年次	共通科目											
	分野別選択科目						分野別選択科目					
					実習科目(週2日程度・150時間以上)							
	リフレクション(活動計画、活動の分析・考察、報告書の執筆)											

・教育実践プロジェクトは9月から12月を予定しておりますが、その他の期間も連携協力校とゆるやかに連携します。

		月	火	水	木	金
前期	1~2限	授業研究の運営と課題	授業における個のとらえ方と対応	授業実践基礎		個に応じた指導の実際と評価
	3~4限	学級経営の実践と課題	生徒指導の実践と課題	集団づくり論	言語活動を軸にした教育内容・方法論	学校改革の理論と実践
	5~6限	カリキュラム開発の実践と課題			現代教師論	リフレクション
	7~8限	教材開発と教育方法の実践と課題			特別支援教育の実践と課題	リフレクション
後期	1~2限	実践プロジェクト			実践プロジェクト	
	3~4限	実践プロジェクト			実践プロジェクト	道徳授業デザイン論
	5~6限	実践プロジェクト			実践プロジェクト	リフレクション
	7~8限	実践プロジェクト			実践プロジェクト	リフレクション

〔個への対応力〕を重視した時間割の例(科目名は平成28年度のもの)

院生の声



現職院生(平成28年度入学)
赤木 由喜
在籍校：栃木県立栃木特別支援学校

開設される授業のうち、共通科目は必修のため、2年間を通して全科目を履修することで、育成する3つの力についてバランスよく学べます。選択科目は研究に関連する領域から履修することになりますが、これらの授業は、現職派遣の院生の自分にとって、これまでの経験や知識の枠を超え、新しい知見を得る大事な時間になりました。「学級経営」や「生徒指導」「現代教師論」などの授業では、学校種や立場に関係なく討論ができ、異なる視点の考えに触れられたことは、自分の教師としての歩みを省みる上でも、特別支援をとらえ直す上でも、とてもよい学びとなりました。

前期授業での理論の学びや視野の広がりを基に、後期には実習校での実践プロジェクトやリフレクションでの「語り」に取り組むことによって、理論と実践の融合や他の院生の学びを共有することもできました。2年次には更なる深まり広がりを得ることが期待できると考えています。



学卒院生(平成27年度入学)
藤浪 友美
在籍校：宇都宮大学教育学部卒業

私は、「子どもが「できた・わかった」を実感できる主体的な学びのある授業」を目指し、2年間を通して研究や実習に取り組みました。

1年目の附属小学校での実習では、様々な授業を参観し、附属小の先生方から教科教育や教材研究の専門的なご指導を頂き、教科の特性や子どもの心を掴む発問、課題の提示法などを意識するようになりました。2年目の公立小学校での実習では、学校ごとに実態が異なる様子を体感しながら、1年目よりも多くの時間を子どもと共に過ごし、多くの授業実践をさせていただきました。子どもの身近なものと結び付けたり、それぞれの子が学びやすい学習方法を選択できる仕組みを用意したりするなど、授業づくりにおける重要な要素を学びました。

こうした2校での実習を通し、個の実態に応じた柔軟な授業づくりの大切さを胸に刻みました。



学卒院生(平成28年度入学)
金野 大晟
在籍校：宇都宮大学教育学部卒業

「大学4年間の学びだけでは足りない」と思ったことが、宇都宮大学教職大学院への進学を決めた率直な理由です。教職大学院には、この数行だけでは語り切れない多くの学びがあります。

現職院生と学卒院生は、ほぼ同様のカリキュラムの下で日々学び続けています。特に毎週金曜午後の「リフレクション」の時間は、互いの実習の進捗状況をざっくばらんに語り合い、その中で教授・現職院生の方々にご助言をいただける有意義な時間となっています。学卒院生は、附属小・中学校において長期インターンシップがありますが、現職院生と共に学ぶことによってこの時間で語ったことが非常に参考になりました。また、学校現場の生の声を聞き、学校教育の現状を知ることができました。

子どもたちの姿をとらえ、一人一人の学びを保障するために、日々学び続けていきたいと思えます。

教職大学院の メリット

教職修士(専門職)の学位が取得できます。また、現有の一種免許状について、専修免許状を取得することが可能です。

現職院生にとって 優れた実践力・応用力を 備えることができます。

教職大学院は、長期にわたり学校現場と密接に関わることで、自らの活動を最新の指導理論から省察することで、現代的な教育課題に対する実践力・応用力が身に付きます。また、大学の講義では、教育実践のみならず、学校経営の視点を身に付けることができます。修了後は、理論と実践が融合し、学校や地域のリーダーとなって活躍することが期待できます。

学卒院生にとって 実践的な指導力・展開力を 備えることができます。

学部の教育実習で学んだことを教職大学院の長期インターンシップでさらに深め、学校現場ですぐに生かすことのできる実践的な指導力や授業の展開力を十分に身に付けることができます。また、現職教員と共に活動することで、幅広い年代と協働する力を身に付けることができます。

学校現場にとって 学校の課題解決への手が かりを得ることができます。

大学院生が、学校の課題を一緒に考え、また、大学教員も、実習と密接に関わりながら、学校に協力することにより、さまざまな視点からの検討や実践が可能になります。実習を通じた関わりだけでは十分な成果に結び付かないかもしれませんが、課題解決への手がかりを得ることに協力できます。また各連携協力校に対しても、必要であれば大学のサポートを継続します。

6 スタッフ

※専任教員は、実習科目・リフレクションを担当することができます。



専任教員 青柳 宏

専門分野 教育学・教育方法学

「授業」を創造するためには「対話」が必要です。また、「授業」を反省するためにも、「教育課程」を創造するためにも、「対話」が必要です。大学院での「学び」を一人一人が語り合う「本当の対話」の場にしたいと思っています。



専任准教授 小野瀬善行

専門分野 教育制度学・教師教育

公教育で重要な役割を果たす教員について、日本とアメリカの制度比較研究を進めています。教職大学院では、学校を取り巻く現実を見据え、これからの公教育や教員のあり方について皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



専任教員 久保田善彦

専門分野 教育工学・理科教育・教科教育

学びには、浅い学びと深い学びがあります。すべての子どもが「深く」学ぶことのできる授業づくりを考えています。深く学ぶ手立てとして、協働学習やテクノロジー活用の研究も進めています。子どもの学びや授業づくりから、教師自身も深く学びましょう。



専任准教授 近藤 秀人

専門分野 生徒指導・国語教育

理論と実践との相互環流的な関係性を重視した参加型の学びによって、教師としての眼識を養います。教育技術のみに傾斜することなく、内省しながら実践を創造し、同僚と学び合える教師のあり方を一緒に模索していきましょう。



専任准教授 司城紀代美

専門分野 特別支援教育・発達臨床心理学

専門は特別支援教育で、エピソードや教室談話といった質的なデータから子どもたちの姿をとらえる研究を進めています。多様な子どもたちとともに学ぶための授業づくり、学級づくりについて皆さんと一緒に探求していききたいと思っています。



専任講師 鈴木 智喜

専門分野 体育科教育・学級経営

わかる楽しさやできる喜びが実感できる授業を目指して、子どもたちの自主性を生かした授業展開や効果的な発問を考えるなど、試行錯誤しながら実践に努めています。一人一人の能力を最大限に発揮させる指導法を一緒に考えていきたいと思います。



専任准教授 原田 浩司

専門分野 特別支援教育・発達障害・学校経営

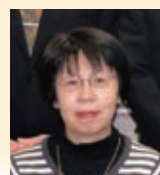
発達障害を含む配慮すべき子どもたちの理解と対応が喫緊の課題になっています。これからの学校教育は共に学び育ち合う豊かな関係を築いていくことが求められているのです。実践と省察を往還しながら21世紀型の改革モデルを模索していきましょう。



専任教員 人見 久城

専門分野 理科教育学・カリキュラム開発

社会や時代の変化に対応した理科とはどのようなものでしょうか。理科の授業づくり、授業分析、教育課程の編成などに興味があります。理科の教師とは何を身に付け、何ができるようにすればよいのかを探究したいと思っています。



専任教員 日野 圭子

専門分野 数学教育学

算数・数学の授業における子どもたちの数学的意味の構成の過程に関心を持っています。子どもが持っている素朴ながらも豊かな知識やアイデアを生かしつつ、それをどう刺激し高めて行ったらよいか、先生方と一緒に考えていきたいと思います。

募集概要

1 求める学生像

本教職大学院では、以下のような学生を求めます。

- 地域や学校における指導的役割を果たし得る教員等として不可欠な確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクール・リーダーになることを志向する現職教員
- 学部段階での資質能力を修得した者(教員免許保有者)の中から、さらにより実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る教員を志向する者

2 募集人数と選抜方法

① 募集人数 15名(学部卒者5名程度・現職教員10名程度)

② 選抜方法

	受験者の区分	検査科目と配点
学部卒者	4年制大学を卒業もしくは3月末までに卒業見込みで、 教員免許状を取得もしくは3月末までに取得見込みの者	「小論文：200点」と「口述試験：200点」
現職教員	現職教員(6年から20年程度の経験を有すること) 県教育委員会派遣現職教員等	「口述試験(「教育実践概要」の審査を含む)：400点」

* 選抜方法や募集日程の詳細は、宇都宮大学大学院教育学研究科 教育実践高度課専攻 学生募集要項をご覧ください。

3 学費

① 入学料 282,000円 栃木県教育委員会派遣の方は入学料の半額を免除します

② 授業料 535,800円(年額)



専任講師 平塚 昭仁

専門分野 体育科教育・学級経営

学校現場で実践を重ねてきました。今、学校現場には様々な子供がいます。目の前の子供とどう向き合うか、実践を通して考えていきたいです。また、理論と実践が伴う教師としての力量を高めていければと思っています。



専任教授 松本 敏

専門分野 社会科教育・授業研究

環境教育や法教育など、公的分野の教育内容・方法を研究するとともに、児童生徒の学びの丁寧な観察から考える授業研究を進めてきました。そこから教師の同僚性を高めて学校改革につなげる道筋を現場と共に考えたいと思っています。



専任准教授 和井内良樹

専門分野 道徳教育

小学校教員として道徳授業研究に長年取り組んできました。道徳教科化が叫ばれる中、改めて道徳教育を研究する意義は大きいと思います。子どもを豊かに育む道徳授業の魅力や指導法などについて考えていきたいと思います。



専任教授 渡辺 浩行

専門分野 英語教育・授業分析

「できる」「わかる」だけでなく「分かち合う」ことをめざした授業作り、そのための授業分析を行います。「教師の働きかけ」「児童・生徒の反応」「反応への教師の返し」がどのような授業を生むことになるか。一緒に考えましょう。



特任准教授 コーディネーター 石嶋 和夫

専門分野 学校経営学・カリキュラム学

私はコーディネーターとして、教職大学院生がお世話になる連携協力実習校だけでなく、連携協力校に御応募いただいた各学校と宇大教職大学院とのつながりが、より一層強化されるよう、精一杯、連絡・相談に努めます。



兼任准教授 上原 秀一

専門分野 道徳教育・教育哲学・比較教育学

小中学校の道徳授業の現状に重大な関心を持っています。子どもにとって切実な道徳問題とはどのようなものでしょうか、その問題を子どもが本気で考えるようになるために教師は何をしたらよいのでしょうか、一緒に考えていきたいと思います。



兼任准教授 岡澤 慎一

専門分野 障害児心理学・重複障害教育・特別支援教育

様々な条件や困難を抱えながら生活する人との係わり合いにおいて生じる障害状況からの立ち直りを目指す実践研究(Action research)を行なっています。「教育」のあり方を、みなさんと一緒に根本から問い直し、語り合えることを楽しみにしています。



兼任教授 瓦井 千尋

専門分野 教育方法・教育行政・学校経営

教職大学院は、学校現場における様々な課題に適切に対応できる、柔軟で幅広い実践力と高い専門性を備えた中核的リーダーを育成することが期待されています。学校現場15年と教育行政23年の経験を踏まえ、皆様の実践研究をお手伝いいたします。



兼任准教授 小原 一馬

専門分野 教育社会学

学校には様々な社会の矛盾が押し込まれています。そうした矛盾をひとつひとつ切り分けていくことで、できることをはっきりさせていきたいと思っています。学校における問題を、社会の問題として捉えなおすことが課題です。



兼任准教授 丸山 剛史

専門分野 学校教育学・教育課程論

授業科目「学級経営の実践と課題」を、教職経験豊かな先生と共同で開講します。事例研究と討議を中心に学級経営の意義、歴史的背景、現状、論点、課題を学びます。そして、学級経営問題解決への見通しをもてるようにします。



兼任講師 廣瀬 隆人

専門分野 成人教育学

学校と家庭・地域の連携を中心に探究していきます。校内研修、教員の資質向上、各種の研修、PTA、学校支援ボランティアなどは全て成人教育の場です。成人教育学の視点から学校を再検討しましょう。

教職大学院へのアクセス

☆峰キャンパス(JR宇都宮駅から2.2km)

JRバス

(祖母井、茂木、清原台団地、清原球場、ベルモール行など)
JR宇都宮駅西口バス乗場③から乗車。約15分。「宇大前」下車

東野バス

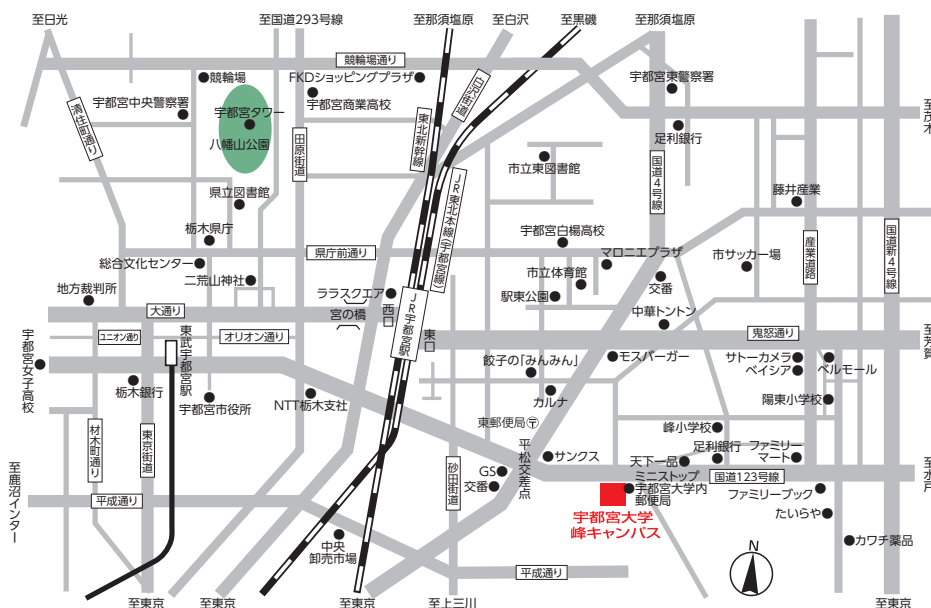
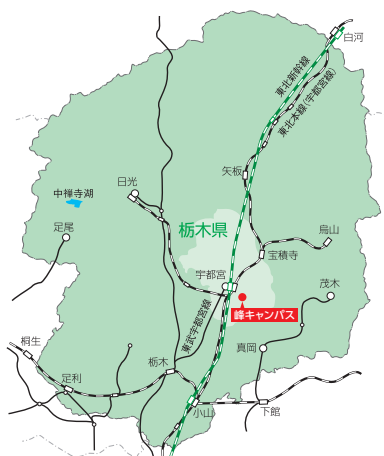
(真岡、益子、海星学院、清原球場、ベルモール行など)
JR宇都宮駅西口バス乗場③から乗車。約15分。「宇大前」下車
東武宇都宮駅バス乗場から乗車。約25分。「宇大前」下車

関東バス

(宇大循環バス左回り)
JR宇都宮駅東口③から乗車。約10分。「宇都宮大学前」下車

タクシー

JR宇都宮駅東口から乗車。約5分。
東武宇都宮駅西口から乗車。約15分。



宇都宮大学 教育学部

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350

TEL.028-649-5242 総務係

TEL.028-649-5112 入試課

<http://www.edu.utsunomiya-u.ac.jp/koudoka/>